

平成29年度 事業報告書（つつじが丘学舎）

社会福祉法人虎伏学園

つつじが丘学舎の前身である虎伏学園は、和歌山市津秦の地で47年間、さまざまな事情で家庭で生活できない子どもたちを支援してきましたが、建物の老朽化に伴い、和歌山市つつじが丘7丁目に、これまでの児童養護施設に加えて、和歌山県ではじめての情緒障害児短期治療施設、児童家庭支援センターを設置し、3つの複合施設として、平成21年4月1日に新たにスタートしました。

現在施設では、4才から18才までの子どもが39名生活しており（定員は45名）、子どもが安心して安全に生活できるように、職員が一丸となってさまざまな支援等を行っています。以下平成29年度の事業実施状況をご報告いたします。

1. 入所児童の状況

年度当初における措置児童数は、45名定員で37名であり、年度末には42名でした。

年間延べ入所人員は472名で、1ヶ月平均39.3名であり、定員45名に対する充足率は87.4%でした。

2. 住環境と支援方法

木造二階建ての小舎制（一つの建物に12名以下で生活する）の家が、4つあり（男子棟2、女子・幼児棟2）それぞれの家には個室が2、2人部屋が3、2～3人生活する和室が2あり、一般の家庭の暮らしに近づけました。

家庭的で自由な雰囲気の中で、子どもの自主性を尊重し基本的な生活習慣を確立するとともに、社会性を養い、子どもの個々の能力に応じて支援しています。

3. 健康管理

園児の健康管理には、平成27年度後期から看護師を配置し、日々の体調を確認し、隔月の身体測定や予防接種を保護者が同意しないものを除き、すべて実施しています。（有料なものも）

なお、必要な時には嘱託医の平石 Dr に助言や診察をお願いし、病気にかかった時には、地域の専門医を受診し、適切な対応を心がけています。

また、被虐待児や障害児等継続的な服薬管理などの医療的ケア及び健康管理を必要とする児童が増加しているため、子どもの体調把握に細心の配慮を行い、緊急時の対応や医療的支援体制が必要な場合は、看護師を中心に万全の支援等ができるように心がけています。

4. 給食関係の充実

食を通して、健康増進を図り、子どもの嗜好調査やリクエストメニューを実施し、月1回の給食委員会を開催し、（施設代表者、栄養士、調理員代表、時に施設長が入る）給食関係の充実を図っています。

5. 児童の処遇改善等

(1) 臨床心理士や心理士による、心のケアの必要な子ども等に対するカウンセリングやプレイセラピーを実施し、適切な援助体制を図っています。

(2) 施設機能強化推進費事業として、特別措置費の交付金により次の事業を実施しました。

ア. ショートホームスティとして、入所児童をボランティア等の家庭に宿泊等させ家庭生活の体験を実施しました。

イ. 地域ボランティア等を受け入れて、児童と共にとらふす夏祭り

クリスマス会を開催しました。

ウ. 大学で子どもの特性や発達について研究されている先生を招き、

3ヶ月に1回スーパーバイズを受けました。

- (3) 昨年度、性に関する委員会を設置し、性教育委員会の会議や外部から講師を招いての施設内研修や外部の研修会に参加し、職員の意識の向上を図った。また、子どもに対しても、年齢や発達段階に応じて、自分や他者の心と身体の大切さを考える機会を設けるとともに幼児から順次研修等を実施した。
- (4) 県内や近畿、全国で実施されている各種の研修会等に職員を積極的に参加させました。
- (5) 磯の浦海水浴場や和歌山城内の清掃活動を体験しました。
- (6) 学習ボランティアによる学習指導を実施しました。小学生の高学年には、塾の先生に来ていただき、中学生は塾に通い、学習指導を受けました。
- (7) ボランティアによるスポーツチャンバラを実施しました。
また、ボランティアによるドッグセラピーを実施しました。
- (8) 支援していただいている方が年4回開催するチャリティ演奏会に子どもたちが出演し、ダンスなどを披露しました。とらふす祭りで子どもたちが虎伏太鼓やダンスを披露しました。
- (9) 支援していただいている団体の方と一緒に和歌山城の清掃活動をし、学園の子ども全員と職員で磯ノ浦海水浴場の清掃活動をしました。
- (10) 企業の社会貢献による人形劇やプロ野球の試合に招待され、素晴らしい内容に興奮し、貴重な体験をしました。
- (11) 専門家がボランティアで、中学生以上の子どもに「スマホやタブレットの正しい使い方」を毎月1度来所し、教えていただいたり、職員にも3回、研修会を開催してくれました。
- (12) 3年前より、里親支援専門相談員が配置されたため、週末里親などの開拓を進めていくとともに、地域の子育て支援として里親支援や施設内のスペースや地域の施設を利用して里親サロンなどの催し物を実施しました。新たな里親の開拓にも取り組みました。
- (13) 平成28年度後半から家庭支援専門相談員が2名配置されたため、保護者などへの支援を通じて、子どもの家庭復帰支援を積極的に行うとともに、施設を退所した子どもたちの相談援助や地域との関係機関との連絡・調整などに取り組みました。
- (14) 国と県の支援を受け、本体施設から約500m離れたつつじが丘5丁目の地にケアの小規模化を目指し、定員7名の小規模グループケアを行う建物を約7千万円余りで建て、平成30年3月27日に和歌山市長をはじめ関係者の方へ出席いただき、竣工式を実施しました。そして平成30年度より本体施設の男子棟の2つの家の定員をそれぞれ8名に減らし、3カ所の小規模グループケアの家をスタートさせました。

年次別入退園児数 つつじが丘学舎

年次別	入園児	退園児	年次別	入園児	退園児
昭和37年度	18人	1人	平成24年度	8人	9人
38	22	9	25	19	15
39	18	11	26	13	15
40	15	19	27	6	2
41	21	10	28	1	7
42	13	12	29	8	3
43	10	10			
44	15	11			
45	18	21			
46	21	11			
47	11	15			
48	16	11			
49	7	22			
50	23	12			
51	8	8			
52	7	5			
53	8	12			
54	14	9			
55	5	13			
56	14	13			
57	15	13			
58	12	13			
59	15	17			
60	13	20			
61	11	12			
62	5	11			
63	17	8			
平成1	9	9			
2	16	10			
3	20	14			
4	19	16			
5	17	17			
6	12	12			
7	17	17			
8	16	19			
9	11	8			
10	19	17			
11	12	17			
12	21	23			
13	16	13			
14	11	9			
15	7	10			
16	15	13			
17	12	12			
18	12	12			
19	10	10			
20	11	28			

2 1	1 2	9			
2 2	1 0	8			
2 3	1 4	1 2	合 計	7 4 6 人	6 9 5 人

つつじが丘学舎

別 表 2

平成29年度 月 別 園 児 数

各月

初日人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
人 数	3 7	3 7	3 6	3 7 (1)	3 8 (1)	3 7 (3)
月	1 0月	1 1月	1 2月	1月	2月	3月
人 数	3 8 (2)	3 9 (2)	4 1	4 1	4 1	4 1

※ 年間延収容人数500人 ※ () は一時保護児童数

年 齢 別 園 児 数

つつじが丘学舎

平成30年5月1日

年 齢	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男	0	0	0	1	2	3	1	0	2	2
女	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0
年 齢	1 1	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	合計
男	2	4	1	3	2	0	1	0	0	2 4
女	1	2	0	4	1	1	0	0	0	1 4

学 年 別 園 児 数

つつじが丘学舎

平成30年5月1日

学 校	小 学 校						中 学 校			計
学 年	一	二	三	四	五	六	一	二	三	
男	3	1	0	2	2	2	4	1	3	1 8
女	1	3	0	0	0	1	2	0	4	1 1
学 校	さくら支援学校			高 校			三才 未満 児	年少 児	その 他	
学 年	一	二	三	一	二	三				合計

男	1	0	1	1	0	0	0	3	0	2 4
女	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1 4